

くばずいどう やさかやまずいどう  
 西国街道から国道 2号への道路改修  
**玖波隧道と八坂山隧道**



幕末期、広島藩は幕府と長州の間に入って戦争回避を目指していましたが、残念ながら幕府軍艦による周防大島砲撃で、慶応2年（1866）に第二次長州征伐が始まりました。岩国徴古館が所蔵する絵図「芸州小瀬川合戦略図」は、幕末の西国街道を舞台に激しい戦争があったことを物語る史料です。この戦によって玖波や廿日市の町屋の多くが焼失しています。絵図に描かれている西国街道をたどれば、玖波宿を出ると馬ためし峠を越え四十八坂へ続いています。吉田松陰が密航企てにより、萩へ護送されるときにこの坂を読んだ歌があります。

四十また八坂 升降 人馬難しむ 興寤時に獨り笑う見得たり周防の山

明治になると、普及し始めた軽車両の通行が可能で道路整備に力が注がれ、広島一大竹間も西国街道に代わる新道路建設が進められました。明治7年（1874）に広島一廿日市間は完成しましたが、廿日市から大竹間は難所も多く、容易に工事は進みませんでした。その後、大竹市小方の庄屋和田吉左衛門の采配のもと、半島のように張り出していた馬ためしの小山に隧道が通り、四十八坂は海岸沿いにルート変更され、小瀬川に大和橋が架かり、ようやく明治13年2月広島一大竹間の新道が完成しました。

国道2号の広島一大竹間が現在の路線となる一次改築は昭和5年度から、直轄部分は広島国道改良事務所により6年度から始められ、太平洋戦争をはさんで昭和32年度にようやく完成しました。

この廿日市市から大竹市玖波間には2つの隧道があります。その一つが明治12年（1879）に掘削され、昭和11年（1936）に拡張された広島県内最古の現役道路トンネル「玖波隧道」です。トンネル内部は拡張されているものの、右から並ぶ「玖波隧道」の扁額やアーチ環の花崗岩に時代を感じますが、昭和20年、海側の切り通しによって新道を通しました。

一方、四十八坂から海岸沿いへ移された明治の道は、波が洗う危険な岬の突端を通っていましたが、長さ96mの八坂山隧道が掘削されました。四十八坂の難所であった山腹の西国街道から、海岸沿いの近代道路に生まれ変わった国道2号。道路改修の歩みの中で国道の役目を終えた隧道と、生まれた隧道が交通の歴史を物語っています。

■位置図



玖波隧道の扁額と装飾的な拱口



八坂山隧道の海側には岬を巡る旧道の痕跡が僅かに残る



馬ためしの峠を歩いた西国街道、県内最古の現役道路トンネルの玖波隧道、そして切り通しで生まれた現国道2号

昭和23年に開通した国道2号で最初の直轄施工トンネル、八坂山隧道